

学習内容の定着をめざす授業改善に関する研究

－ワークシートの有効な活用を通して－

M14EP011

内藤 成子

1. はじめに

これまで児童を引きつける授業や学習した内容を確実に児童に定着させる授業を展開させるため、教材研究や児童の実態に即した授業の展開、言葉かけや板書の工夫など、日々努力してはいるものの、何か $\pm\alpha$ がほしいと感じていた。この機会に十分な振り返りや見直しをして、自らの授業の改善を図りたいと考えた。

そこで、児童が学びの成果を、授業を振り返りながら自分の言葉でまとめることによって学習内容を定着させたいと考え、そのためのツールとしてワークシートを利用することにした。

小学校の学習において、とりわけ社会科においては、児童も教師も課題を抱えているのが現状である。例えば、大澤(2012)によると、児童の社会科嫌いが広がっていると言われてから、すでに10年近くが過ぎようとしており、社会科の授業づくりや学習指導に悩む教師が増えているという声が相次いで聞かれるようになってきたという。確かに社会科は、児童の生活環境や経験などによって学びへの関心や意欲に差が出ると筆者自身も感じている。それらをいかに克服していくか工夫が必要であり、レディネスの把握や事前の取組、資料の精選、ワークシートの使用などが大切になってくる。社会科において、

- ・授業にのぞむ準備段階
- ・思考を整理する、深める段階
- ・情報を整理し、考えを焦点化する段階

というところに、ワークシートの有効な活用ができるのではないかと考えた。

2. 先行研究

山梨県総合教育センター(2011)の実践では、授業で学習した内容を児童に定着させるための方策として、学習記録や振り返り活動が重要であるとし、授業後に学習内容を振り返り、自分の言葉で学習履歴を残すことを通して、学習の成果と課題を明らかにさせ、次の学習に対する動機づけとすることができるとしている。

また、中村・尾崎(2011)は、ワークシートは学習を効率的に進めるためにたいへん有効であるとし、学力の3要素を意識したワークシートへの改良を提案している。中村・尾崎はさらに、学力の3要素が育つようにするためには振り返りの活動が大変重要な意味をもつ学習活動であるとしているが、何となく振り返らせてしまっただけでは子どもたちの学びが深まらないとしている。

以上のように、学びを定着させるための振り返り活動やワークシートの作成の仕方が提起されている。

そこで、本研究では、社会科において、ワークシートの有効な活用を通して、学習内容の定着をめざす授業改善を行うことにした。

3. 研究の目的

- (1) 授業観察を通して、学習の成果を高める素地となる学級経営をいかに行うかを探る。
- (2) ワークシートの位置づけを明確にし、書く活動を伴った学習過程を重視した、ワークシートのあり方とその効果を検証し、自己の授業改善を図る。

4. 研究の方法

(1) ワークシートの有効な活用について、文献等から明らかにする。

(2) 実習校と実習方法

- ①実習校・学年：山梨県内公立小学校 第5学年
- ②実習期間：2014年5月～12月
- ③実習方法：授業観察、授業実践

(3) 授業観察

5月～10月は、授業観察を行った。その中で児童の実態を把握し、研究の課題を焦点化するために、以下の視点をもって観察した。

- ①学習内容の定着に関わる学級経営・学習規律のあり方
- ②充実した授業を実現させるための諸要素

(4) 授業実践

第5学年を対象に、『工業生産を支える人々』の「日本の工業生産と貿易」を全4時間で行った。

①指導案の作成

「工業生産を支える貿易や運輸の働きに関心をもち、統計資料や地図などの具体的な資料から必要な情報を集め、読み取ることを通して、我が国の工業生産を支える貿易や運輸の働きや変化について調べたり、これからの貿易のあり方について自分の考えを説明したりすることができる。」という小単元の目標に迫れるよう、4時間分の指導計画を作成し(表1)、それをもとに毎時間の指導案を作成した。児童の興味関心を引きつける、思考を促せるような発問、使う資料の精選という点に着目し、工夫した。

②事前学習シートの作成

児童が、資料を見て社会的事象が読み取

れるよう、グラフの読み取り方についてのポイントを示し、本学習に入る前にクイズ形式で楽しく学べるような構成とした。

表1 小単元の指導計画

時	目標	展開	留意点
1	日本の自動車の外国での生産の様子を調べ、貿易による世界各国との結びつきや協力について考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車の生産台数や輸出台数の変化をグラフから読み取り、海外生産が増えたことを考える。 ●日本の自動車は、海外のどこで、どのくらい生産されているのか調べ、海外生産することのよさを話し合う。 ●海外での自動車生産に大切なことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本車は世界各国へ輸出されていることをおさえる。 ◆グラフと地図をもとに、海外生産が急増していることや日本の自動車工場が世界中に広がっていることとらえさせる。 ◆海外に工場をつくることの利点についておさえる。 ◆今後の自動車生産で大切なことについて自分なりの考えをもち、表現させる。
どうして海外生産が増えているのだろうか？			
2	日本の貿易の輸入について貿易額や相手国、輸入品目などの変化を調べ、日本の輸入の特色を調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●輸入額の変化を調べる。 ●輸入している品目を調べる。 ●輸入している主な国を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆輸入の品目から特色をみる：日本が輸入している主な品目を知ること、我が国は資源や鉱物原料を輸入に頼っていることに気づかせたい。 ◆輸入先の変化に目を向ける：輸入先の変化に目を向けることで、我が国の工業や国民生活の変化を考えさせる。
日本の輸入の様子を調べよう			
3	日本の貿易の輸出について貿易額や相手国、輸出品目などの変化を調べ、日本の輸出の特色を調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●輸出額の変化を調べる。 ●輸出している品目を調べる。 ●輸出している主な国を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆輸出の品目から特色をみる：日本が輸出している主な品目を知ること、我が国は多くの工業製品を輸出し、貿易が成長していることに気づかせたい。 ◆輸出先の変化に目を向ける：輸出先の変化に目を向けることで、これからの貿易のあり方に興味をもたせる。
日本の輸出の様子を調べよう			
4	日本の工業製品の貿易をめぐる問題点を話し合い、工業を支える貿易の新しい動きを調べ、自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の貿易の問題点を考える。 ●どうしたら解決できるか考える。 ●これからの日本の貿易について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆輸出の問題に目を向ける：輸出入額の変化が日本や相手国にどのような影響を与えるのかを考えさせる。 ◆キーワードの活用：これまでの学習内容を想起することで、我が国の貿易の特色についてキーワードを確認しながら考えることができるようにする。
これからの貿易のあり方を考えよう			

③毎授業のワークシートの作成

言葉を活用して学習内容を定着させるためのツールとして、ワークシートを利用した。しかし、これまでのような単なる穴埋め的なワークシートではなく、共通の知識をもって授業にのぞみ、基礎・基本を確実におさえ、それらをベースに思考を深め、学んだことをまとめ記述するという一連の流れが見えるようなワークシートに工夫した。

また、教科書や資料集に記載されている資料は、情報が豊富で便利ではあるが、逆に言えばさまざまな情報が一度に入ってしまう、整理しないとわかりにくいとも言える。あふれる情報にとまどってしまう児童もいるであろう。そこで、児童が目的に応じて必要な情報を整理してワークシートに記述することによって、学習課題に迫ることができるのではないかと考えた。

ワークシートには、以下の5点が期待できる。

- ・情報を整理できる。
- ・考えを焦点化できる。
- ・学習の成果を一覧でき、確認できる。
- ・子どもをつまづきに気づき、支援することができる。
- ・授業評価の材料を収集する機会となる。

④毎授業の評価と改善

児童がワークシートに記した本時のまとめをもとにして、児童の理解状況を把握し、授業の評価を行った。それらをもとに、次時での修正・改善を行うことができた。

(5) ワークシート作成の留意事項

学習内容を定着させるためのツールとしてワークシートを用いた。上記のワークシートに期待していた5点を念頭に置き、作成にあたって筆者が留意した点を以下に示す。

【情報を整理するために】

- ・用語をきちんとおさえるために、しっかり書かせる枠を設ける（板書と同じように書かせる）。
- ・枠を設けることで、活動の見通しをもたせる。

【考えを焦点化するために】

- ・板書された本時のめあてを、ワークシートに自分で書かせることによって、意識化させる。
- ・考える流れをつくる。（枠を設ける、考えるのに必要な情報となる資料を載せておく）
- ・考える場面での記入欄は、何度も書き直しながら考えを整理できるように、罫線を無しにする。

【学習成果の一覧でき、確認できるために】

- ・適度な内容量、大きさ、保管を考え、用紙をA4版に統一。

- ・授業の終わりに本時のまとめを書かせる。

5. 研究の結果と考察

(1) 授業観察から

①学習内容の定着に関わる学級経営・学習規律のあり方

児童が落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組めることができる環境づくりが大事であり、学級の雰囲気や全教職員の共通理解の上に全校一貫した学級経営が成り立つということがわかった。さらに、学習内容を定着させるには、学びの前提となる学習規律を児童に身に付けさせる必要がある。学習規律は、日常的に継続的な指導により身に付くということが改めて確認できた。

②充実した授業を実現させるための諸要素

十分な児童理解、児童の実態を考慮した適切な教材、ねらいが明確になっている授業展開が大切であることが確認できた。充実した授業の条件としては、これら3つが必須条件であるが、さらに以下のような点が大事であるということを授業観察から見出した。

- ・導入とまとめの一貫性
- ・児童の実態に合った適切な学習課題を提示すること
- ・学習内容や活動の見通しをもたせること
- ・児童への支援が適切であること
- ・児童の学ぶ意欲を高めていること
- ・学習評価が適切であること

(2) 事前学習シートの作成

小学校学習指導要領の各学年の目標(3)では、各種の(具体的)基本資料を効果的に活用し、社会的な事象の特色や相互の関連、意味について考える力を育てるように

することなどを求めている。第5学年になると、統計資料が急に多くなり、その点が社会科の学習の困難さと考えられる。そこで、統計資料や地図、写真などの具体的な資料を活用して、必要な情報を集め、読み取るための支援が必要と考え、事前学習シートを作成した(図1, 図2)。授業後の児童の言葉から、事前学習シートを用いることによって、自信や意欲の向上につながったことがわかる(図3)。

グラフ名人になろう

全体をつかむ

- ★ タイトル(題)は何?
- ★ 横しく・たてじくの単位は?
- ★ いつのグラフ?
- ★ どここの資料?(出典)

部分を見る

- ★ 一番多いのはどこ?
- ★ 一番少ないのはどこ?
- ★ 変化の様子は?(折れ線グラフ)
- ★ 割合の具合は?(円グラフ・帯グラフ)
- ★ 量のちがいは?(ばうグラフ)

理由を考える

- ★ どうしてそうなったのかな?
- ★ そのとき何があったのかな?

分せる

- ★ いつでも同じなのかな?
- ★ 今までの学習と関係はないのかな?
- ★ 他の資料と関係はないのかな?
- ★ ちがう立場の人はどうなのかな?

つなぐ

- ★ 何が関係しているのかな?
- ★ 何が関係しているのかな?
- ★ 何が関係しているのかな?
- ★ 何が関係しているのかな?

まとめ

- ★ いつどこで だれが 何を どうして どのように?
- ★ わかったことは何? わからなかったことは何?
- ★ これからどうなるのかな?
- ★ これからどうなっていくといいかな?
- ★ 自分たちでできることは?

図1 グラフの読み取りについての手がかり

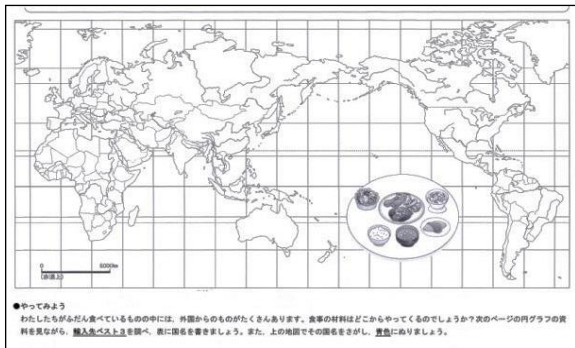


図2 円グラフからの読み取りと世界地図-1

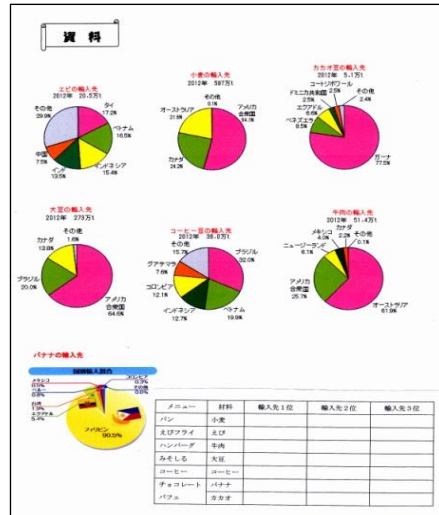


図2 円グラフからの読み取りと世界地図-2

授業が始まる
前に先生が用意して下さった、チャレンジが
とても楽しく、グラフ表の見かたが、以前に比べ、
だいぶ上手になりました。

チャレンジにあったこの国のクイズは、
ちょっとくわしくしたけれどおもしろ
かったです。もっと社会をくわ
しくなれるようにがんばりたいです。

図3 事前学習についての児童の感想

(3) 4回の授業実践の内容と検証結果

① どうして海外生産が増えているのだろう

(第1時)

日本の自動車について、国内生産・輸出・海外生産の台数の移り変わりの様子をワークシートに示されたグラフから読み取った。考えを深めるにあたって、全員が共通に使えるようにするためにワークシート上で用語をおさえた。毎時間、その授業でおさえるべき用語についてこの枠で確認した。ここで用語をおさえることによって、全員が用語を使うことができるようになった。また、学習課題に対する自分の考えと、全体で交流したものを書きとめる枠を設けた。ワークシートへの記述をもとに交流するこ

とで考えが深まったことが、まとめから読み取ることができる(図4)。

図4 第1時で使用したワークシートと記入例

②日本の輸入の様子(第2時)

導入で、ふだんから児童との会話で出てきていた筆者の腕時計の実物と拡大写真を使った(図5左)ので、児童の興味を引くことができた。

第2時では、輸入品や海外生産による製品が自分たちの身近にあることを実感させようと考えた。(図5右)の写真は、児童にとって身近なゲーム機である。日本の企業の製品なのに「MADE IN CHINA」と書いてあることで、たいへん驚いていた。そこから、第1時で触れた「海外生産」ということに気づき始めた。全員で再度確認をしたが、前時で得た知識を使う場面を、後の授業に生かせるよう設定することが大切だということが、児童Aの記述からわかる(図6)。ワークシートで用語の確認をする姿も見られ、ワークシートの効果を感じることができた。

MADE IN ~は、~(国・地域)で作られた製品であることを知り、子どもたちは授業中・休み時間・家庭において、MADE IN ~さがしに夢中になっていた。学んだことが興味関心を高めたり、行動を伴い生活と結びつけたりという点は、社会科の学習において重要なことである。導入を工夫することにより、日本の輸入に対して関心が高まり、図7に示すようなワークシートの記述となった。



図5 児童の興味関心を引く工夫

図6 児童Aの記述

図7 第2時で使用したワークシートと記入例

③日本の輸出の様子（第3時）

第2時で使用したワークシートの資料と同じ形式のものを使ったため、学習課題への取りかかり、発問に対する記述がスムーズだった。また、キャラクターを用いて資料中の用語についての注釈を加えたことも学びをスムーズにすることができた(図8)。

本時のまとめを書かせるときには、板書の内容や活用した資料などを振り返らせることが大切である。本実践では、今日の授業のキーワードを、根拠を示して選び出させ、全員でその語句を確認した(図9)。キーワードの確認によって、ワークシートにまとめる内容が焦点化され、本時の学習成果を確認することができた。本時のまとめは、本時のめあてに対するまとめであり、教師は児童が書いたものをもとに本時の目標の達成状況を評価することができる。そのため、キーワードを使って本時のまとめを書くことは、「今日の授業の感想を書きましょう。」というような働きかけとは違い、意図を明確にし、書いた内容が有効に活用できる、より効果的な書かせ方であった(図10)。

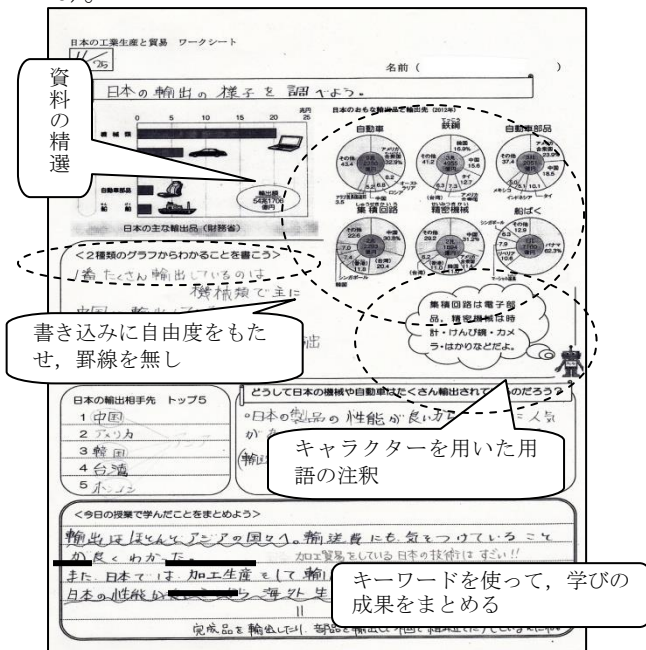


図8 第3時で使用したワークシートと記入例



図9 板書でキーワードを確認

(○：キーワードとしてあげられた語句にマーク)

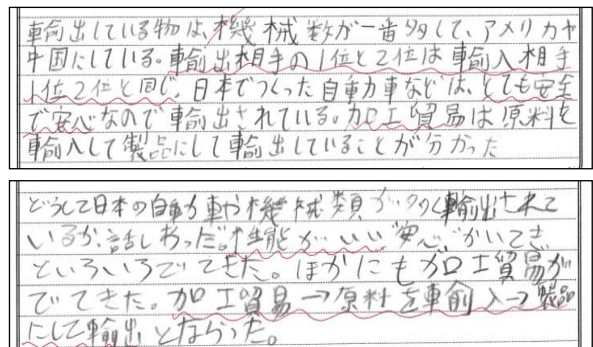


図10 キーワード確認後のまとめ記入例

④これからの貿易のあり方（第4時）

第4時のはじめには「貿易」という用語をおさえた。第1時のワークシートに、全4時間で使う重要な用語の説明を記入する枠を作成したため、児童は授業のはじめに重要な用語をおさえるという見通しをもつことができた。活動すべき内容がわかるワークシートを使用することで、学習への意識づけが行われ、学びに対する意欲が高まった。思考を深める前の知識の整理に役立つということもわかった(図11)。

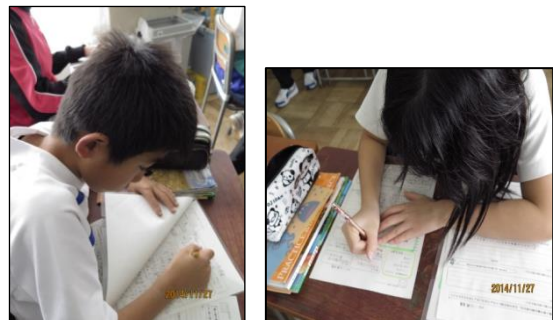
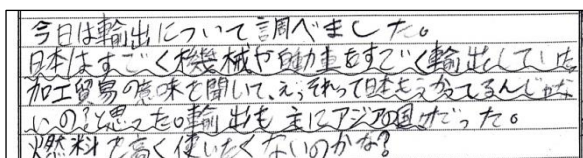


図11 活動の見通しがもてるワークシート

次に、前時に児童から出た言葉を生かし、学習課題に迫った(図12)。それまでの3回の授業に比べ、友だちが言ったことに対して、「～ではないか?」とつぶやいたり、意欲的に意見を述べたりする児童が増えた。それまでの学習の積み重ねや、ワークシートで思考を整理してきたという積み重ねがあることで、児童が自信と意欲をもって学習に向かっていることを実感できた。



第3時のまとめで児童から出た言葉を、第4時につないだ

図12 振り返りで児童から出た言葉を次時に生かす

また、これからの日本の貿易のあり方について、自分の考えを記入後、小グループで話し合う時間を設けた。すぐに話し合いに入れたということも、ワークシートで自分の思考を整理していることに起因している。どのグループも活発にやりとりをしていた(図13)。ワークシートへの記述からは、大事な用語をおさえつつ、それまでの学びを整理したまとめが書かれているものが多く見られた(図14)。



図13 ワークシートを活用しながらの活発な話し合い

日本の工業生産と貿易 ワークシート

名前 ()

輸入額や輸出額の変化は、日本や相手国にどのような違いを与えるだろう?

★ 日本の輸入額が増えると…

<日本> たさんの物で手に入れることか るか。そのかわり、お金がへた た	<相手国> たさんもうかるか、自分の国で 生産した品物をもとに た
---	--

立場が逆になる
本の輸出額が増えると…

それぞれ、よい点とよくない点がありそうだね

本>

たもうかるか? 品物をつまない けない。	<相手国> 日本の物を手に入れることか (できるか、お金をはらわない いけない。
-------------------------	---

これから貿易のあり方について考えよう!

自分の考え>

あは、いろいろな国と取りか 技術を教えるあたりできると いこととも思っている。この国も 輸入や輸出もうまく取りか えるようになった。た、	<みんなの考え> 輸出額を高くすると、どこか の国にたよりが増えて輸出額 はかえり方が良いため、逆に すくすく伸びている。(た らず、自分の国のお金が輸入するた にたよりにいってしまふ。
--	---

<今日の授業で学んだことをまとめよう>

貿易は、技術などをもつたうえで、
たけと、権限がなたりかたよ、
あるので、とせも、まか
でも、すくすく伸びない。
とつないだ

考える流れを

図14 第4時で使用したワークシートと記入例

(4) ワークシートへの記入事項からの授業評価と授業改善

ワークシートへの本時のまとめは、教師の指導が適切だったかを検証するための授業評価の、極めて有効な材料となった。評価した成果を次の指導に反映させることができるということである。

例えば、第1時のワークシートへの記入から、「海外生産」について、教科書や資料集にある工場の人のお話をもとに、海外の工場では苦労や工夫があることをつかむことはできた。しかし、「海外生産」をもっと身近に感じさせたいと考えた。

そこで、児童の身近にあるゲーム機や家電製品などの具体物を扱い、社会事象を実感としてとらえられるよう、次時で修正・改善を行ったところ(図5右)、児童Bのように実感を持った言葉が出るようになった(図15)。

<第1時>

日本はアジアだけでなくアラブ首長国連邦などまでたくさん輸出していることが分かりました。小さい国から大きな国までたくさんありました。現在は国内生産よりも海外生産の方が多いいことが分かりました。言葉や習慣がちがう中でも多くが人によって生産しているのはすごいなあと思いました。

実感を持った記述に

<第2時>

これも中国やオーストラリアの国(アジア)からの輸入が多いことは知っていたけれど日本の会社の物にドイツや付と書いてあるのは最初はどこまでかきまわしても海外生産=現地生産だとばかりだったので日本の物を中国などの国でつくりそこで売るといつくみかがよくわかりました。

図 15 児童Bの記述

(5) 授業実践の成果

「用語を確実におさえる枠」、「自分の考えを記述し、意見交流後にみんなの考えを記述する枠」、「最後に本時のまとめを記述する枠」など、ワークシートに枠を設けたことによって、児童は学びの成果を整理しながら思考することができた(図 16)。そして、ワークシート上で考えを熟成させてきたからこそ、話し合いにまで及ぶこともできた。また、前時までのワークシートを手元に置き、常に見返す児童の姿が多く見られたことから、ワークシートの中に、その児童の思考の内容や過程がつまっており、積み重ねの成果を関連づけて、一層深めていることが読み取れた。児童は単元全体を一つのストーリーとしてとらえ、その流れの中で、再構成しながら少しずつ学びを熟成させていた。

ワークシートの活用がたいへん有効であったことが、教師自身の実感と共に、次のような児童の言葉からも感じることができる。

- ・ワークシートを使った授業はわかりやすかった。
- ・発言はできなかったけれど、ワークシートにしっかりまとめることができた。
- ・ワークシートを使って話し合えた。
- ・ワークシートにコメントを書いてくれたことで、社会科が好きになった。
- ・自信をもってテストにのぞむことができた。

児童の生活環境や経験などによって、興味・関心や意欲に差がある社会科の特性を克服するためには、工夫が必要であり、そこにワークシートの活用が有効であることが検証できた。

6. 研究の成果と課題

本研究では、ワークシートの工夫とその有効な活用を通して授業改善を行った。その成果として、児童は授業全体の見通しが持てたり、要点を整理することによって、自分の考えを焦点化したりすることができた。さらに、学びの成果を、授業をふり返りながら自分の言葉でまとめることもできた。一方、教師側の視点として、児童が学びの成果を実感できる課題設定や発問が重要であるのだとあらためて感じさせられた。

今後は、他の教科においても、ワークシートに工夫を加え、学習内容の定着に向けて、その有効性を検証していきたい。今回は4時間という小単元での検証だったので、さらに長い単元においてワークシートを活用し、児童の変容も見取りながら、学習内容の定着に結びつけていきたい。

児童の記述に対する教師側のコメントのあり方についても、「必要なコメントをタイムリーに」「学習意欲を向上させるようなコメント」という視点を持ちながら研究を深めていきたい。

7. 引用文献, 参考文献

- ・文部科学省(2008) 小学校学習指導要領解説 社会編
- ・中村祐治・尾崎誠(2011) 「学力の3要素」を意識すれば授業が変わる!。96. 教育出版
- ・大澤克美(2012) 日常の社会科授業力を上げるー社会科教科書の使われ方の実態とその改善。まなびと。2012年春号。2-4. 教育出版
- ・山梨県総合教育センター(2011) 学力向上プログラム。95